

先端技術導入事例

ICT を活用した効率的な捕獲わなの導入（長門市）

1 導入の目的・背景

長門市では高低差のある山間部が多く、猟友会の高齢化が課題となっている。このため、通信距離が10 km以上を有し、親機1基でカバーできる通信エリアが広い「ほかパト」を導入した。罠の作動を「ほかパト」が管理者に通知することにより、管理者の罠の見回り等の労力軽減とジビエ処理施設へ速やかな搬入が図れることが期待されている。ランニングコストが比較的安価、中継器を設置すれば利用料が変わらずさらに広範囲をカバーできる点が魅力である。

2 導入した機器の概要等

導入機器名及び数量	ほかパト：親機1基、子機31基
設置場所	長門市俵山地内
対象鳥獣	イノシシ、シカ
設置時期	令和3年1月



(箱檻)



(親機)



(子機)

3 効果

イノシシ 0頭 シカ 3頭

「ほかパト」導入による効果を実感してもらい、俵山地区でのICTシステム導入を進め、利用地域の拡大に向けて検討を進めていきたい。

4 使用者の声

檻の扉が閉まると時間帯を問わず自動的に通知が届き、捕獲個体が暴れて傷ついたり、衰弱する前に確保できる事ができ、良質のジビエ商品が作れ、商品価値が上がった。また、捕獲個体の処理に関わる人員の確保が容易になり、わな管理者については、見回り等負担の軽減につながっている。